

1. 採点上打ち合わせた事項

今回は新型コロナウイルス感染予防対策として、当日の審判研修時間の短縮により、事前のオンライン審判研修をプラスして行い。ルールの確認と共に、映像を使つての採点研修より今大会の採点基準の確認を行った。

【個人・団体D1】

事前の映像研修の通り、選手の質と美しさ実施力のバランスを意識し、選手のエネルギーを肌で感じながら採点にあたった。個人、団体共に研修の段階でほぼ同じ目線に揃えられたことも大変良かった。

【個人D3】

オンライン研修での資料や、前日の審判研修で確認したことを念頭に置き実際に起こり得そうなことや疑問を話し合った。また、BD中のADの見落としがないようにすること、ただし何でもカウントではなくBDの基準があること、ADとしての条件が揃っている等の確認を行った。

【個人フープ・クラブ・団体E1】

全体の演技をみて作品の質を見極める様にする。演技の流れや、表現力が大切である。各手具要素の見落としが無いようにする。また、手具の多様性、フロアーの使用の仕方等、事前研修及び審判研修に則り採点する。

【個人ボール・リボンE1】

芸術減点項目が少ない為、差が付け難くなることが予想された。その中で大きく点数が変わるであろう「アイデアのガイド」の減点の見方の統一に努めた。

また、「ダイナミックな変化」の項目の見解を確認した。この項目は「動きのエネルギー、パワー、スピードそして強さを音楽の中で変化させる」とルールブックに記載されている。よって、ただダイナミックに見える動きを続けるのではなく、1分半の演技の中で変化の見られない演技に対しては正しく減点が入られる様に打ち合わせた。

【個人フープ・クラブE3】

質の高い選手が少しのミスが出た場合と、比較的四肢の緩みや誤差などのある選手がミスなくこなした場合に点数が逆転してしまう例があるかも知れない。ミスはミスとして目の前で起きたことは減点すべきだが、ミスだけにとらわれず選手の質を見極めた差が出るよう採点に心がけた。

【個人ボール・リボンE3】

映像研修を中心に見解の統一を図った。また大会前日の対面研修では積極的に意見交換を行い、BDの誤差の減点が何点か、身体・手具の基礎技術、姿勢欠点の減点はどうか、落下や移動などのミスのみではなく、選手の美しさ、正しさを見極めることを打ち合わせた。

【団体D3】

以下について打ち合わせを行った。

- ・ 連係、R中の回転重複、回転不足についての判断
- ・ 連係の投げの高さの見極め

- ・手以外、視野外の基準を見逃さないこと
- ・実施ミスを見逃さず、正確に採点を行う

【団体E3】

個人と同様、映像研修を中心に見解の統一を図った。また、大会当日の対面研修では、落下・移動などのミス、BD、身体・手具の基礎技術の減点箇所を細かく話し合い、確認を行った。チーム全体の身体の資質やレベル（美しさ）と、本番演技の実施度を見極め、ミスの有無のみの点数にならずバランスよく採点、点数化することを打ち合わせた。

2. 採点上起こった事項とその処理

【個人D1】

BDは失敗がない限り、ほぼカウントできたが、以下のことは2名で確認をし合いカウント・ノーカウントを判断した。

- ・リングのバックルローテーションと伸ばしたローテーションの形が同じに見えたものがあり、2つ目をノーカウントとした。
- ・ステップの多様性が足りない選手が数名みられ、質もみながら判断し不足していたものについてはノーカウントとした。
- ・BD中に膝下のボールの突きが3回ない選手がいて、手以外で突き返すわけでもなく、明らかに小さく足りないものはカットした。

【個人D3】

- ・2回転のRの回転時に中断がありRの基準を満たさずノーカウント
- ・Rまたは、ADの回転重複
- ・受けのADで、プレアクロバットが倒立姿勢で静止してしまったものはノーカウント
- ・投げ受けのADは高さの判断で意見が分かれるものもあったが、研修資料の高さの基準を思い出し判断した
- ・受けのADは、回転中や視野外の基準不足でノーカウントにすることが多かった（特にヤナ回転での受けは視野外にないことが多い）

【個人フープ・クラブE1】

フープ

- ・曲のラストで早く終わり、減点
- ・手具要素不足の減点
- ・練習不足からか踊り込めていず曲を活かした表現が不足しているように見える

クラブ

- ・手具の多様性がなく減点
- ・手具要素不足の減点
- ・難度の羅列になっている
- ・クラブの真ん中持ちが多い
- ・手具の特性を活かしている選手が少なく投げばかりであった
- ・風車がステップにしか入っていない
- ・フロアーの方向が一定となり減点

【個人ボール・リボンE1】

・ボール、リボンともに共通していたのは、演技前半では曲の表現やイメージを喚起する動きが比較的行われているが、中盤から後半にかけては技の羅列となっている

演技が大変多かった。

- ・ダンスステップコンビネーションでのみ表現を行う演技も多く、大半の演技は「アイデアのガイド」0.5の減点を入れざるを得なかった。
- ・リボンでは完全にBGMとなっていたので、0.7の減点を入れた選手もいた。それに伴い、「ダイナミックな変化」が見られない為、大多数の選手に0.3の減点が入る事となった。

【個人フープ・クラブE3】

- ・移動を伴った受け、に関して減点の見極めにそれぞれ迷いが出た。明らかな移動は別に、演技として繋がった移動の範囲内なのかフロアの使い方としてあえての移動なのかの判断が難しい選手が見受けられた。
- ・BDの誤差について、一つのBDに複数の誤差があり、複数になると特に0.1/0.3で迷うケースがあった。

【個人ボール・リボンE3】

- ・BDの誤差、BD中のゆがみ、姿勢欠点、リボンのゆるみなどの減点について、審判長と確認を行ったことがあった。
- ・全体的にルルベが常に高く上がったまま演技を実施している選手は少なかった。
- ・ジャンプ難度で大きく、もしくは複数誤差が入る選手が多かった。
- ・難度以外でのシャッセの移動など、つなぎの部分でリボンがゆるむことが多いように感じた。
- ・演技中に投げ受けのADを多く実施する選手が増えたが、不正確な軌道になってしまい、移動の減点が入ることも多かった。
- ・後半種目のリボンでは、落下などのミスが出てしまう選手が多かった。

【団体D1】

- ・ステップは取れるものが多く目線も揃っていたが、BD（ジャンプターン・フェットピボット等）の手具操作のタイミングが個人よりも実施が甘いチームが数チームあり、見解が分かれた。
- ・座位の移動と受けの回転遅れがやや見受けられ、座位と回転をカットすることが多かった。
- ・交換時、座位の形の変更がなく座位をカットしたチームがいた。

【団体D3】

- ・連系の回転重複で後からの連系ノーカウント
- ・連系中、落下はないがミスによる接触でノーカウントがあった
- ・CRR時、土台の通過がきちんと行われておらず、選手同士の関りが全くなくなってしまったものはノーカウント
- ・連系の投げのタイミング、受ける手具が回転後に投げ上げられていたものはノーカウント
- ・サブグループの連系で、異なる連系の仕方でノーカウント
- ・座の位置や、ダイブリープなどで投げるものでも小さい投げとなってしまったものは連系の基準に当てはまれず、ノーカウントとした

【団体E1】

- ・演技の繋がりが無く連系の羅列になっている
- ・身体が止まっていたり、手具をずっと持っていた
- ・作品の表現の仕方の判断が難しかった
- ・ミスがおおく作品が見えなかった

- ・落下、移動、クラブの両手取りが多く、全体的に大きさに欠けていた
- ・禁止連係とラスト曲と合わない減点あり

【団体E3】

- ・全体的に移動・落下のミスが多かったと感じる。チーム全体の身体の資質やレベルを見極め、採点を行ったが、ミスによる減点も多く推移した。
- ・研修で移動については十分確認を行ったが、評価が難しいと感じることもあった。技術ミスによる移動であるか、演技上必要な移動であるか、もしくは構成上の不具合による移動であるか、演技全体と選手の動き、投げの軌道を見て判断を行った。

3. その他特記事項・意見・感想等

【個人D1・団体D1 中野芽衣子】

個人では、事前の映像研修や当日の研修が大変役立ち、1・2審共に同じ目線でジャッジすることができました。シニアといえどリボンの描きや明確さが甘い選手が多く、特にジャンプターンでの手具操作で、振りが縦なのか横なのか、潜り抜けているのかが曖昧なものがあったので、手具操作の違いの明確さを意識して演技して欲しいと感じました。

団体は、ミックスの団体で交換の加点の見極めが重要だと思っていましたが、事前の映像研修とその映像を送っていただいたことで研鑽でき、落ち着いたジャッジに繋がりと、良い準備ができたと感じています。ただ、実際に肉眼でみるのとビデオとでは、やはり違いがあり、実務経験の重要性を実感しました。

最後に、コロナでの大会中止が続いたなかでの、2021年最初の高校生日本一を決める重要な審判を務めさせていただき、ありがとうございました。実務不足もあり大きなプレッシャーを感じておりましたが、それに向けて精一杯勉強し研鑽を積んだ時間は大変充実しており、又、選手達のエネルギーを肌で感じられた時間は大変幸せでした。これからも選手達の熱い想いに全力で応えるべく、審判員としての努力と研鑽を惜しまず続けて行こうと思います。

この大会開催の為にご尽力いただきました関係各所の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【個人D3・団体D3 伊豆島知佳】

ここ2年で新体操は異なる種目になってしまったのではないかと、というぐらいの世界の流れに、高校生は懸命についていこうとしていると感じました。

コロナ禍で数々の大会が中止になってしまっていたなか、開催地の先生、関係者の皆様にご尽力いただき開催できたこと、感謝申し上げます。

そして、今大会に審判員として参加できたこと深く御礼申し上げます。

【個人フープ・クラブE1 寺田江身子】

高校生にとって、1年半ぶりの大会となりますので、感慨深いものがありました。地域によっては練習が出来なかった所もあったと思います。踊りこめていない分ミスが多く発生してしまいましたが選手達は精一杯演技をしているのを拝見出来ました。また、事前研修及び審判研修で丁寧に指導して頂き有難うございました。このような状況の中で大会を運営して下さった北海道の方々に心から感謝すると共に、今大会に携わらせて頂きました事に感謝を致します。有難うございました。

【個人ボール・リボンE1 杉山裕美】

久しぶりの全国大会、そして個人は4種目という高校生たちにとっては厳しい状況での大会だったと思われます。また、直前まで首都圏では緊急事態宣言が発令されていた事もあり、思う様な練習がつかめなかったのではないかと予想されます。その為、

大変ミスが多く、作品や選手自体が良くとも綻びが大きく評価しきれない作品が多かったのが残念でした。しかし、目標とすべき大会が無くなってしまった前年度の事を思うと、ミスが多くとも全国場で演技を披露したということ自体に価値があるのだと思います。そして、その場で審判として関わることが出来た事に、感謝と喜びを感じております。大会に関わる全ての皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

【個人フープ・クラブE3 岡田小枝子】

審判長に確認しなくてはならない程のアクシデントはなかった。全体的にはフープよりもクラブの方（後半）にミスが目立っていた。また、BDの誤差について特に反りジャンプの後屈不足が目立ち、誤差0.3が多くなった。

ミスはあるが四肢の減点は少ない質の良い選手とミスは少ないが誤差や身体の減点が多い選手の差が難しいと感じました。また、投げたフープの振れや、クラブ風車など手具操作の細かい減点などその違いもあったと思います。ありがとうございました。

【個人ボール・リボンE3 団体E3 佐藤なつみ】

今大会に審判員として参加させていただき、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルスの影響で様々な大会が中止となってしまう、約1年半ぶりに高体連の全国大会に臨む選手の演技から、パワーを感じました。最後になりましたが、コロナ禍の大変な中、開催されました北海道の役員の皆さま、補助役員の皆さま、高体連体操部の皆さまには、深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【副審判長 栗原 悠】

個人のD3では受けのADにおいて回転と関わりのないタイミングの悪い実施が多かった。選手の身体の前で手具を受けてしまい、視野外でないものの実施も目立った。D3を追っていると各要素を単独で実施している選手と、手具の流れ軌道も考え、流れの中で要素を実施している選手との差、また手具が空中にある間身体が動いていない選手と波動や踊り要素を実施している選手では作品として大きな差に見えた。

団体では、新チーム、新しい作品、久しぶりの全国大会ということもあってかミスが多い印象であった。その中で、選手の質、構成の質、実施度のバランスの良いチームが上位にあがった。D3では、投げの高さの問題より、連係が次々展開したときに、投げのタイミングが悪くなる、通過が見えない、どこまでが1つの連係か見にくいなどの問題が採点していて気になった。

音楽のフレーズを効果的に使用し、音のアクセントで連係を実施して、客観的に見た時に見やすくするなどの改善をすると良いと感じた。

最後に、コロナ禍で大会が開催されるかわからない状況でモチベーションを保ち、準備をするのは本当に大変なことだと思いますが、選手たちのこの試合に懸ける想いが伝わってくる試合となり、審判員として審判席につけた事に改めて感謝の気持ちです。また、試合開催にあたりご尽力くださった高体連体操専門部の皆様、開催地北海道の関係者の皆様、本当にありがとうございました。この試合を通して様々な形で、日本の新体操の発展に繋がることを祈念しております。

【審判長 鈴木あおい】

高校生の全国大会としては1年半以上ぶりの今大会であったが、まずはこのような状況下にも関わらず沢山の協力ののもと試合が無事開催され、審判員として参加させていただけたことに心から感謝の気持ちでいっぱいである。

選手自身久しぶりの全国大会であった選手も多かったと思う。またこのコロナ

禍で十分な練習ができなかった選手も多かったのではないだろうか。個人はその中で、1日で4種目をやり切るのは、技術以上に精神力と体力が必要である。やはり後半種目のクラブ、リボンで崩れてしまった選手も多かったが、それでも最後まで集中を切らさず踊りきれた選手が上位になってきている。技術以上に基礎体力、精神力を備えていけることが重要であることも改めて感じた試合となった。また、個人団体共に、練習時間の短縮も関わってきていると思うが、正しい身体づくり、基礎的な練習の不足を感じた。D3ポイントのボリュームが増えてきていることも重なり、身体難度での減点も多く、コマ数が増えていることから身体を最大限まで使えておらず、のびやかさや大きさに欠け、そして何より美しく正しく動くことがおろそかになってしまっている選手が多く、また作品性を感じさせる演技が少なかったように思う。今後、選手、チームが進化し続けていけるようなルールに期待したい。

最後に、今大会審判長という大役をいただき沢山の不安を抱えながら迎えた試合でしたが、最初から最後まで見守っていただいた長谷川副会長、地元役員として試合運営いただきました競技部長の小中先生をはじめ北海道連盟役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、そして副審判長の栗原先生をはじめ本部派遣の先生方に、沢山支え励ましていただきながら、無事終了することができました。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。